



JACET通信

大学英語教育学会

December 2007 The Japan Association of College English Teachers

No.162

[会長挨拶]

全国大会前日の「長い一日」 ——学会の運営や組織の報告の一助として——

JACET 会長 森 住 衛
桜美林大学

先般の第46回全国大会については、本誌と同時に詳細な報告が送られていると思いますが、おかげをもちまして成功裏に終わりました。改めて関係各位のご尽力とご協力に御礼申し上げます。本欄では、この大会の前日の9月6日に開かれました諸委員会について簡単に報告をしながら、法人化をはじめとする懸案事項や学会の運営や組織の一端をお知らせいたします。

まず、本部運営に関する役員会や委員会から始めます。本年度は合計5つの役員会や委員会等が当日の午前11時から午後5時半まで開かれました。順に並べますと、組織構成委員会、全国委員会、顧問会議、秋季理事会、評議員会です。以下がそれぞれの「一口報告」です。

組織構成委員会

この委員会は正副会長と支部長を中心とした特別委員会です。会則改正と法人化準備を主たる任務として、年に2回ないし3回開いてきました。この日は、法人化の最後の詰めや直後の役員会の議事の確認を行いました。委員会は、今年で4年目に入り、年度末にその任務を終わります。ただし、来年度以降も、社団化が落ち着くまでは、こ

の種の会議体を設ける予定です。

顧問会議

全国委員会と同時開催でしたので、途中の出入りがありましたが、今回は6名の顧問の先生方と正副会長・総務担当理事・正副代表幹事・法人化準備委員会委員長の計13名が出席しました。法人化に関する質疑応答が中心でしたが、最後に、「大学英語教員の身分の保証」と「学会独自の英語能力試験の作成」が話題になりました。この2つは非常に重要で、法人化が一段落したら、すぐにも着手したい課題です。

全国委員会

JACETには、総務、財務などの運営委員会が10委員会、テスト研究開発、実態調査などの特別委員会が4委員会（このうち3つは9月30日で終了）あります。これらの委員会には7つの支部からの委員が入っていますが、日頃は全委員が一堂に会する機会がありません。そのため、この全国大会時を利用して集まっています。本年度はこのうち7つの運営委員会が同時開催されました。

秋季理事会

恒例の「活動や会計の報告と計画」等の案件に加えて、法人化の問題が審議の中心でした。その

うちの1つとして、理事の数が20名になることが内定しました。これまで社団化にあたっては現在の28名プラス外部理事2名の計30名の陣容で進めてきました。しかし、社団法人の規定で「20名以内」が強い原則であることがわかり、余儀なく20名としました。今年度で任期切れの理事、支部ごとの削減の割り当ての理事等を合わせて計10名（支部単位では、関東支部4名、他の6支部各1名ずつ）が理事の職を辞することになります。この案件の冒頭に、会長として、事情の釈明と今後は運営委員等でJACETの運営に関与していただきたい旨、お願いしました。なお、新体制の理事の具体的な陣容は、年内に4つの支部で行われる支部長選挙の結果を経て、最終案が決まります。これを12月の組織構成委員会で確認してから発表となります。

評議員会

理事会案件に出した「評議員会議長・副議長の推薦」を除くと、評議員会の議案は理事会とまったく同じです。本会議の冒頭に、まず、9月3日に急逝された広野威志評議員（関東支部）に哀悼の意を表しました。そして、評議員会は今回をもって最後となる旨の挨拶をしました。今回が最後なのは、社団法人には評議員という役員が設けられていないからです。これまで評議員だった皆様には、今後は代議員や運営委員等の立場で学会への関与をお願いする次第です。なお、社団化した際の代議員一覧の案も出しましたが、まだ、未確定な部分が残っていますので、12月の組織構成委員会で確認し、2月11日の設立総会で正式な提案となります。

大会実行委員会・全国大会運営委員会・その他

以上が本部運営関係の委員会ないし会議の報告ですが、実は、この前後にも大会関係の委員会や部局が活動していました。たとえば、午前10時から大会実行委員会の打ち合わせが開かれました。大会委員長、大会実行委員長をはじめ、中国・四国支部の役員、会員、アルバイト生の約50名のみなさんが集まっていました。業者展示も全国大会運営委員からの担当委員が、展示場の割り振りなどの差配を始めました。また、受付も本部事務局から派遣された事務員を中心に準備に着手しました。そして、この日の最後は、午後6時半から開かれた大会実行委員と全国大会運営委員の顔合わせでした。互いに紹介し合ったあと、大会運営の最終打ち合わせをしていました。いうまでもなく、両委員会はこの1年間、大会のために準備をしてきたのですが、この合同の打ち合わせの機会

を設けて、大会直前の入念な確認を行ったわけです。この集まりが終わったのは午後7時半頃です。

このように、全国大会前日の9月6日は関係者にとっては「長い一日」でしたが、これはこれまでも毎年やってきていることです。この一日を観ると、JACET全体の運営と組織の一端が垣間見られるといえます。

私のゼミ紹介

村野井 仁

東北学院大学
文学部英文学科

東北学院大で学部3、4年生を対象に開講している私のゼミを紹介します。テーマは第二言語習得（SLA）研究で、この演習は英文学科の英語コミュニケーション系（専攻）に配置されています。英語コミュニケーション系では、私のゼミの他に、英語習得・学習に関わる演習が2つ、社会言語学に関するものが3つ、その他、比較文化、心理学に関わるものが2つ開講されており、従来の英文科の枠には入りにくい研究領域がゼミで勉強できるようになっています。

ゼミではまずSLA研究を概観する論文を使って、この領域でどのような研究が行われているのかを私が解説します。ゼミ生のほとんどが始めてこの領域を専門的に勉強することになるので、学生自身のこれまでの英語学習と結びつける形で紹介するように努めています。単行本ではなく、論文を使い、なるべく多角的にこの領域でどのようなことが研究されているのかを紹介します。最近ではGass、Pica、Lightbown & Spadaなどが書いたものを使ってみました。次に、テーマがかなり絞られた論文を使い、具体的なSLA研究にはどのようなものがあるかを学生にグループで発表してもらいます。Power Pointを使いながら、みんなにわかるように「自分のことば」で説明するのが課題です。

ここで紹介された研究テーマの中からどれか一つを選び、夏休みの間にゼミ論を書くという大きな課題があります。今年度は日本人英語学習者の発話データを素材として使い、学生がさまざまな実証研究を行うよう仕組んでみました。日本人の関係代名詞習得において接近度階層の影響は見ら

れるのか、ポライトネス表現の使用に英語熟達度の違いは影響するのか、英語熟達度の指標として t-unit あたりの平均語数は妥当性があるのか、留学経験は英語熟達度に影響を及ぼすのか、英語上級者と中級者は使用する語彙に違いがあるのかなど、今年もかなり突っ込んだゼミ論が生まれました。



(秋の東北名物、芋煮会 2007 年 10 月)

後期の始めには夏休みに書いたゼミ論の発表を行います。個人またはグループで 30 分程度の発表をしますが、聴衆からの質問が次第に鋭くなっていくのもおもしろいところです。後期の後半は、*Applied Linguistics* や *SSLA* などから最新の論文を集め、どのような研究が行われているのかをグループで発表していきます。学術論文を学部の学生が苦しみながらも読みこなしていくのを目の当たりにし、私は日本の学生もやればできるのだなあと毎年感心しています。このようなゼミの進め方は、私がジョージタウン大の応用言語学博士課程で体験した *Seminar in SLA* を基盤にしています。大量に読んで、発表し、そして実験するという流れですが、ちょっと薄めれば私のゼミにも十分適用できることが試してみてもわかりました。

このゼミの履修者は、卒業後さまざまな職業に就きます。英語教員、航空関係、旅行関係などの英語に関わる職業に就く者も毎年必ずいますが、英語に関わらない仕事に就く学生ももちろん多くいます。このような多様な学生たちにゼミを通して私が伝えたいことは、何か疑問を持った時に、自分で関連文献を読み、第 1 次資料を集めて分析し、その結果を基に自分の頭で考える力を身につけてほしいということです。トピックが何であれ、自分で調べ、自分の頭で考える力を持ってほしいと思います。そのような知的能力を育てるのと共に、このゼミでは第二言語を身につけることにはどのような意義があるのかをしっかりと考える機会を設けるようにしています。母語ではない言語

を身につけるということは、紛争と対立の渦巻くこの世の中で生きていく私たちすべてにとって大きな意味があることを折に触れて話し合っています。2006 年度には韓国で英語を学ぶ大学生とゼミを通じた異文化間交流を行って、第二言語習得の意義を確かめてみました。科学としての SLA 研究のおもしろさだけではなく、異なる人同士をつなぐことを可能にする第二言語習得の大切さも 2 年間という短いゼミの中で感じとって、卒業してほしいと願っています。



(韓国学生との交流 2007 年 2 月)

特色ある 大学英語教育プログラム

村川 久子・会津大学

会津大学英語教育

1. 教育目的

会津大学はコンピュータ理工学部の単科大学で 1993 年に開設され、今年で 14 年目を迎えました。現在は外国人教員が 40% ですが、設立時は日本人教員と外国人教員 (17-18 カ国) の比率が半々でした。学生達は外国人教員の授業を英語で受けなければならないので、英語教育をするのに理想的な環境です。また卒業論文はすべて英語で書く事が必修です。本学は English for Specific Purposes (ESP) を基本に、英語をツールとみなし、このツールを使って専門分野の知識とスキルをアップするために、コンピュータ理工学部の学生に必要なコンピュータに関する英語の 4 技能(読む、

書く、聴く、話す)を上達させることを英語教育の目標としています。



(会津大学正門)

2. カリキュラムの特色

入学してきた学生のほとんどは語学力がないので、先ず語彙数を増やし、コンピュータの内容を紹介する市販の教材を使い、本学の担当教員が教材を開発することを前提にした指導をしています。必修科目と選択科目の中で中心となる必修科目を紹介いたします。

(1) 科目

1) リーディング

新入生が必修科目として履修する Academic English では読解を強化することと、コンピュータの初歩を英語で読み、その内容を英語で書く練習をします。Prentice Hall 社出版の *Computers: Tools for an Information Age* 等のテキストを使っています。第一章が約 30 頁あり、それを読み、毎回授業前に、教員がサブタイトルを白板に書き、それについて覚えている事を 10 分間で書かせ提出させます。最初、学生は四苦八苦しますが、学期の中間頃には辞書も不要になり、読みが早くなり、書くのも最初の頃と比較すると 2 倍の量が書けるようになっていきます。

2) ライティング

ライティングは論文構成を主に、Academic Writing I & II, Technical Writing I & II, Thesis Writing の 5 科目を設置しています。すべて、学術論文を書くのを目的としていますので、リサーチの方法、論理の展開(演繹法)、パラグラフの展開、校正、参考文献等、細かく指導します。問題は練習中、日本語で書く内容がまとまっていない場合が多いので、毎年これが課題となります。

3) 発音(プレゼンテーション)

発音は 1 学期間の履修だけですので、ある程

度指導内容を限定し、重要なポイント(腹式呼吸、イントネーション、強弱、/r/音、/p、t、k/音等)を指導し、内容は研究発表の練習に重点を置き、発表の開始から最後までに必要な英語表現、それに目線、ボディランゲージも含め指導します。本学では 1992 年から 1993 年に私が Sony 社と開発した LML (Language Media Laboratory) 語学教育システムを導入しており、それを使った発音指導をしています。客観的に学生は発音を視覚的に捉えることができるので、個人の発音とネイティブの発音を比較する事が出来たり、発音の持続時間を測定する事が出来ますし、母音、半母音もすべてフォルマントから音の正確さを評価出来ますので、学生はその標準となる数字に近づけるように練習します。



(Language Media Laboratory)

(2) チームティーチング

本学では私以外はすべて外国人教員で、チームティーチングを実施しています。1 科目を複数の教員が担当しますので、その中に 1 名チームリーダーを決め、そのリーダーが指導資料、指導法、シラバスをチームで議論しまとめる役割を担います。1 科目の 1 学期目には共通の資料、授業の進行等を統一しますので、2 学期目には学生の習得度は別にしましても、指導内容が重複しないようにしております。

3. 教育効果

教育効果として、会津大学の評価基準からすれば、上級と中級及び初級に分かれるかもしれませんが、ライティングも論文を書く時に生じるミスが上級レベルになると冠詞、また英語の表現が少し不自然というぐらいで、初級レベルですと全く意味不明の論文になっています。卒業論文では教員全員が Thesis Writing の授業で英文チェックをしますが、初級レベルですとチェックする前に何度もコンピュータ専門の先生と話しをするように伝えます。

TOEFL や TOEIC のレベルでその効果が少しわかるかもしれません。過去 14 年間でアメリカ、ドイツ、カナダ留学をし、修士号を取得し、帰国した学生は卒業生を含め 43 名になりました。留学するためにはペーパーベースの TOEFL 試験で 550 点以上必要ですが、先ず上記の国々でコンピュータ大学院に入学し、すでに修士号を取得し、国内の企業や大学で勤務している卒業生もいます。留学中に専門を栄養学、また医学（医師、医療器具開発）、運動生理学等に変更した卒業生もいます。1 期生が博士号を取得し現在ジョージタウン大学大学院で Research Assistant Professor になり活躍しています。

TOEIC テストの結果では TOEIC ITP テストで、公開するのはお恥ずかしいのですが、2006 年には 800 点以上が 48 名中 5 名、700 点台が 3 名、600 点台が 6 名、500 点台が 15 名で他はすべて 400 点台と 300 点台です。これらのテストは本学でリスニングやスピーキングが外国人教員の指導でかなり慣れているという事が言えるかもしれません。また外国人であるからと言ってほとんどの学生が物怖じしないという教育効果もあります。

4. 今後の課題

今後、教育効果を上げるために、効果的な指導方法、ソフトの開発が重要となると思います。例えば、音声関係では、今年度末には 3D アニメーションで発音器官の動きを画面上で表示出来、舌の動きを三次元で表示するソフトの開発が完了します。

東京に本社があります EFGLeader 社 (English for Global Leadership, コンソシアム) が今年の 9 月に設立され、その企業と音声の分析でスペクト



(研究棟)

グラム表示をもっと簡素化したパターンを現在開発中です。これは 2008 年には完成予定です。

研究会紹介 (関西支部)

ESP 研究会

代表 幸重美津子・京都外国語大学

本 ESP (English for Specific Purposes) 研究会は大学英語教育学会 (JACET) 関西支部に所属し、現在約 50 名の会員登録があります。例会は 2 ヶ月に一度のペースで開催され、活発なディスカッションを行いながら、常に時代のニーズを見据えて活動を続けています。また、例会と平行して、複数のプロジェクトが進行しており、各プロジェクトではメーリングリスト上での議論も活発に行われています。

2003 年に文部科学省より「仕事で英語が使える日本人」育成という目標を与えられた大学英語教育は、現在大きな課題を抱えています。「英語が使える」だけでなく、「仕事」というドメインを与えられたことで、学生の将来の専門領域を視野に入れることが英語教員にも求められていると言えるでしょう。また、著しい時代の変化により英語を使う状況は日々変化をしており、一定した知識としてだけでなく、常に変化していく「動態」として英語を捉える視点が、学習者にも教員にも不可欠となってきています。

本 ESP 研究会の大きな目的は、どのような専門分野でも ESP を取り入れた授業ができ、専門分野への橋渡しの役割を担える教員のあり方を追求し、そのような資質を養成することです。さまざまな分野の専門教員との連携を深め、学習者の専門分野におけるニーズやジャンルを把握し、その分析結果を教材作りやカリキュラム作成にどのように生かすかを検討する、という取組みを通して、与えられた専門分野で ESP 授業ができる教員として成長すると考えています。

このような分析・応用能力は、この時代の英語の担い手となる学生達にも是非とも培ってほしい能力でもあります。ESP を取り入れた授業では語彙や文法に関する知識の伝播のみならず、学生達が触れるテキストジャンルについて観察した上で、学生自らが分析・応用する能力の涵養が必要です。そのためには ESP 授業や教材がどうある

べきかを研究会では模索しています。そして EGP (English for General Purposes) 教員であっても専門分野の教員であっても、ESP 授業を行なうことができる「普遍性をもった ESP 授業計画の体系化」の実現に向けて、常に理論面と実践面の両方から研究を進めています。

2006 年度にはほぼ 2 ヶ月に一度、大阪工業大学 (大宮キャンパス) で研究会を実施いたしました。主な内容としては review article に関する研究書を全員で輪読して、ESP の主要理論であるジャンル分析の理解を深め、また「経済 ESP」に焦点を当てた研究を行いました。後者においては立命館大学経済学部から要望が寄せられ、専門教員のニーズ分析から選んだ専門書をもとに経済 ESP 教材のあり方を検討しました。同時に立ち上げた有志による「経済英語教材作成プロジェクト」の研究成果である教材は (2～3 月にかけて作成)、2007 年度の立命館大学経済学部での授業でも実際に使われています。

2007 年度は専門分野との一層の連携を目指し、各専門分野から先生方をお招きしてご講演をいただいております。6 月の JACET 関西支部春季大会では 2006 年度末に取り組んだ経済 ESP 教材の作成について、ワークショップとして発表しました。通常の研究会例会としては初回 5 月に輪読のまとめを行い、また 7 月には経済英語をテーマとし、専門分野から立命館大学の松原豊彦先生のご講演と、「経済学の教材とタスクの多様性」(桐村亮先生) の発表が行われ、9 月には「ESP 文献総覧プロジェクト」(森口稔先生) や「専門教育を促す ESP 教育」(岡本清美先生) の発表が行われました。11 月の例会では医学・看護系 ESP をテーマに、専門分野から東京医科歯科大学のフィリップ・トロモヴィッチ先生にご講演をいただき、看護英語 (川越栄子先生) についても発表がされる予定です。今後も数回の例会を開催し、各専門分野 (経済、工学、知財、医療・薬・救急、法学、経営・商学、観光、農学、資格英語、その他) の先生方に講演をお願いする予定です。

また、同時進行中の ESP 文献総覧プロジェクトでは、これまでの ESP 関連の書籍、論文、学会発表などを取りまとめ、検索可能なデータベースを作成しております。このプロジェクトは今後、全国の JACET 支部に所属する ESP 研究会や他学会に所属する ESP に関心のある有志との連携も視野に入れ、文献総覧に限らず、授業アーカイブや研究者総覧、ニーズ分析データベース等とも統合し

ていく発展可能性を見込んでおります。

以上のとおり、ESP 研究会では理論にとどまらず、会員のアイデアとディスカッションによって、ダイナミックな実践への模索を、和気あいあいとした雰囲気の中で自由闊達に進めています。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

本部便り

代表幹事 寺内 一・高千穂大学

大学英語教育学会は、2006 年 4 月 1 日より、「会員管理業務」と「年会費徴収業務」を株式会社大学生協事業センターに委託してまいりましたが、社団法人化に伴い 2008 年 3 月 31 日をもって、上記の業務を大学英語教育学会内に置く事務局に戻すことになりましたことをご報告いたします。

社団法人化に際しまして、事務局に事務局長と事務主任を専任で置くことが義務付けられました結果、支援センターに預けていた当該業務も学会内の事務局で対応することになったことが変更の理由です。

会員の皆様には、また新たに会費納入方法と、会員情報の管理システム両方の変更となり大変ご迷惑をおかけします。皆様には大変ご不便をおかけしておりますが、ご理解の程よろしく申し上げます。

1. 「年会費」の支払い

毎年 6 月末日までに「年会費」支払いをお願いいたします。4 月初旬に新しい「払込取扱票」を全会員宛に発送いたします。郵便局で同払込取扱票を用いてご送金ください。紛失された場合は郵便局備え付けの「払込取扱票」でもご送金いただけます。

賛助会員、団体会員で銀行振込による会費納入を希望される場合は、今まで通りご利用いただけますが、新しい会員番号 (ご請求時にご案内いたします) を先頭にお付けください。

いずれの場合も、送金にかかります費用はご送金人様にご負担くださいますようお願いいたします。

当該年度の会費未納の方へは、10 月第 1 週に「再請求」の発送、その後 2 週間以内に会費納入がなされない場合は発送の停止を行ないます。また、当該年度中にお支払いがない場合は会員資格を失います。

2. 所属・E メールアドレスなどの変更

会員の皆様のご住所やご所属、E メールなどお届け内容の変更は、大学英語教育学会事務局

(JACET 事務局) 宛に葉書、Eメール、FAX等の文書で直接ご連絡ください。4月以降、大学生協学会支援センターにご連絡されても会員情報の変更はできません。

〈大学英語教育学会 (JACET 事務局)〉

住所：〒162-0831 新宿区横寺町 55

Eメール：jacet@zb3.so-net.ne.jp

FAX：03-3268-9695

なお、法人化に伴いまして入会方法と退会方法も変更となる予定ですが、詳細は次号でご報告いたします。

支部便り

〈九州・沖縄支部〉

1. 第3回運営委員会

日時：7月6日(金) 17:35～18:30

場所：ハynesホテル久留米会議室

議題：

- (1) 支部総会資料について
- (2) 支部紀要について
- (3) 支部大会打ち合わせ

2. 第21回支部研究大会および春季支部総会

日時：7月7日(土) 9:30～17:10

場所：久留米工業大学

テーマ：英語教育における学習ストラテジーと学習タスクより良い授業を求めてー

(1) シンポジウム (大会テーマと同タイトル)
コーディネーター：山本廣基 (西南女学院大)
司会：ロバート・ファウザー (鹿児島大)
パネリスト：Shin-hey Kim (Keimyung Univ., Korea)、尾関直子 (明治大)、竹内理 (関西大)、中谷安男 (東京理科大)、河内千栄子 (久留米大)

- (2) 春季支部総会 (2006年度支部会計報告、2007年度支部予算案承認その他)
- (3) 研究発表 14件

今年度の支部大会では、毎年交流を行っている韓国PKETAより3人の発表者(うち1人パネリストを含む)を得、また学習ストラテジーの国内各地の研究者を迎えてのシンポジウム、支部会員および一般参加による研究発表14件が行われた。悪天候にもかかわらず、65名の参加者を得て、盛会のうちに終了することができた。

3. 第2回支部紀要編集委員会

日時：7月21日(土) 12:00～13:00

場所：西南学院大学

議題：

- (1) 支部紀要 12号査読結果について
- (2) 支部大会シンポジウムの掲載について
- (3) 今後の編集スケジュールについて
- (4) 協賛広告の依頼について

4. 第70回東アジア英語教育研究会

日時：7月21日(土) 15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：大津敦史 (福岡大)

発表題目：大学における初年次教育と英語教育の接点

5. 第3回支部紀要編集委員会

日時：9月1日(土) 13:00～14:00

場所：宮崎県立看護大学

議題：

- (1) 支部紀要 12号再審査の結果について
- (2) 支部大会シンポジウムの掲載順序について
- (3) 支部紀要 12号の印刷見積もりについて
- (4) 今後の編集スケジュールについて
- (5) 協賛広告の依頼について

6. 第4回運営委員会

日時：9月1日(土) 14:00～17:00

場所：宮崎県立看護大学

議題：

- (1) 秋季学術講演会について
- (2) 2008年度支部研究大会について

7. 第71回東アジア英語教育研究会

日時：9月22日(土) 15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：津田晶子 (中村学園大短期大学部)

発表題目：大学英語教育のニーズ分析とプログラム評価：「接続的」「継続的」「国際的」なカリキュラム開発の視点から

8. 第72回東アジア英語教育研究会

日時：10月20日(土) 15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：沖洋子 (長崎県立松浦高)

発表題目：語学教育における課題中心アプローチ

9. 第4回ESP Corpus Workshop (予定)

日時：10月27日(土) 12:30～17:30

場所：長崎純心大学 (情報演習室3)

発表者：投野由紀夫 (東京外国語大)

10. ESP研究会 (予定)

日時：11月3日(土)

場所：熊本大学

11. 第5回運営委員会 (予定)

日時：11月10日(土) 13:00～17:00

場所：西南学院大学学術研究所

12. 第73回東アジア英語教育研究会 (予定)

日時：11月17日（土）15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：樋口晶彦（鹿児島大）

発表題目：韓国初等学校の英語教育－第七次教育改革と忠清南道の現状－

13. 支部紀要 *Annual Review of English Learning and Teaching* 第12号発行予定（11月30日）

14. 第74回東アジア英語教育研究会（予定）

日時：12月15日（土）15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：石川慎一郎（神戸大）

15. 第6回運営委員会（予定）

日時：12月22日（土）

16. 秋季学術講演会（予定）

日時：12月22日（土）

場所：西南学院大学

発表者：Prof. Oryang Kwon（Seoul National Univ., Korea）

発表題目：Teaching English in Korea from Primary to Tertiary Education: the Current Issues and the Challenges It Faces（仮題）

17. 第75回東アジア英語教育研究会（予定）

日時：1月19日（土）15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：中野秀子（九州共立大）

18. 第76回東アジア英語教育研究会（予定）

日時：2月16日（土）15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：原隆幸

19. 第77回東アジア英語教育研究会（予定）

日時：3月15日（土）15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：Jan Stewart（筑紫女学園大）

20. 第7回運営委員会（予定）

日時：3月15日（土）

21. 支部ニューズレター No. 24（4月発行予定）

（志水俊広・九州大学）

〈中国・四国支部〉

1. 第2回大学英語教育学会 中国・四国支部 ブロック1研究会

日時：11月25日（日）

場所：広島国際大学国際教育センター

2. 第2回大学英語教育学会 中国・四国支部 ブロック2研究会

日時：12月9日（日）

場所：岡山大学（津島キャンパス）教育学部・講義棟2階

詳細は中国・四国支部のウェブサイトを参照のこと
<http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~bld10/JACET/>
（鳥越秀知・詫間電波高専）

〈関西支部〉

1. 第1回講演会

日時：2007年7月29日（日）15:30～17:00

場所：高槻市生涯学習センター 3F

講師：加賀田哲也氏（大阪商業大）

演題：小・中連携を視座に入れた英語教育への取り組み－寝屋川市の事例をもとに

2. 関西支部秋季支部大会

日時：2007年10月13日（土）

場所：滋賀県立大学

テーマ：日本における英語教育の課題と展望

(1) ワークショップ：アジア諸国における小学校の英語教育から日本は何を学ぶか

河原俊昭（京都光華女子大）、川畑松晴（金沢学院大）、後藤田遊子（北陸学院短大）、辻伸幸（和歌山大教育学部附属小）、仲潔（九州女子大）

(2) 実践報告：発見学習のための大学院生TAを活用した学部英語科目における作文課題の実践
梅咲敦子（立命館大）、ゴードン・ラッツラフ（立命館大）、平尾日出夫（立命館大）

(3) 研究発表1：実践的コミュニケーション能力向上に資する外国語語彙学習教材作成システムの開発 竹蓋順子（大阪大）

(4) 研究発表2：経済学部出身者の職場における英語使用に関する質問紙調査 清水裕子（立命館大）

(5) 研究発表3：日本人英語学習者の発話に発話潜時の違いが及ぼす影響－復唱課題および自由回答式質問課題に基づく心理言語学実験 森下美和（神戸大・大学院生）

(6) 研究発表4：タスクモードの違いが英語の冠詞使用に与える影響：日本人英語学習者のアウトプット分析から 福田真里（神戸大・大学院生）、田中順子（神戸大大学院）

(7) 研究発表5：再帰代名詞の省略と意味論的研究 井上卓（関西学院大・大学院生）

(8) 基調講演

「確かな文法と豊かなコミュニケーション」

Grammar Liberates Communication 岡田伸夫（大阪大）

◇遠方で、当日JRのダイヤが乱れるということがあったにもかかわらず、79名の参加者がありました。今回の大会は、午後からの開催という異例のものでしたが、内容がコンパクトにぎっしり詰まり、成功裏に終了しました。

3. 今後の予定

第2回講演会

日時：2007年12月16日(日) 15:30～17:00

場所：コープイン京都

講師：植松茂男氏(摂南大)

演題：台湾の早期英語教育の現状と課題

—台北市文化国民小学校の例を中心に

◇2008年度春季大会は、2008年6月7日に摂南大学で開催されます。

(奥田隆一・和歌山大学)

〈中部支部〉

1. 2007年度支部役員会

第4回支部役員会

日時：7月14日(土) 13:30～15:20

場所：中部大学名古屋キャンパス

報告事項：

(1) 第24回中部支部大会について(展示がなかった件について)

(2) 実態調査委員会の報告書の配布方法について協議事項：

(1) 第24回中部支部大会の会計報告

(2) 南山短期大学との共催講演会

(3) 支部紀要について

(4) 定例研究会について

(5) 2008年度中部支部大会とJALTとの共同開催について

2. 公開講演会(南山短期大学との共催)

日時：9月29日(土) 14:45～16:45

場所：南山短期大学 No.11 教室

講師：三森ゆりか氏(つくば言語技術教育研究所所長)

演題：グローバルスタンダードな母語教育—論理的思考と分析力を育てる「言語技術」の体系と内容—
(村田泰美・名城大学)

〈関東支部〉

1. 支部合同会議

10月20日(土) 16:00～16:30

11月17日(土) 16:00～16:30

場所：JACET 事務所

議案：支部の委員会構成について、各委員会報告、2007年度関東支部大会について、2008年度全国大会について、新研究企画委員人事等。

2. 支部月例研究会および特別講演会

(1) 11月月例研究会

日時：2007年11月17日(土) 17:00～18:00

発表者：大石晴美(岐阜聖徳学園大)

「第二言語習得における最適脳活性状態とその教授法：光トポグラフィを使用して」

(2) 第2回特別講演会

日時：2007年9月28日(金) 16:00～17:30

場所：早稲田大学

講演者：Richard Johnstone(スターリング大名誉教授)

An early start: costs and benefits of teaching additional languages on a large scale in pre-primary and primary school education

(3) 第3回特別講演会

日時：2007年11月22日(木) 17:30～19:00

講演者：Ron Carter(ノッティンガム大)

The Changing English Language 2000-2010

◇10月9日(火)に予定されていた特別講演会は講演者 James P. Lantolf 氏(米国応用言語学会会長)の都合により中止となった。

(中尾正史・桐朋学園芸術短期大学)

〈東北支部〉

1. 支部役員会・例会

日時：10月13日(土) 13:30～17:00

場所：エル・ソーラ仙台第2研修室

役員会内容(13:30～14:40)

以下の点について、報告及び審議が行なわれた。

(1) 12月役員会・例会の会場の変更について

(2) 東北支部紀要 *TOHOKU TEFL Vol.2* の応募状況・発行について

(3) 「JACET 東北支部通信」の「会員からの報告」について

(4) 2010年の全国大会会場選定について

(5) JACET 賞について

(6) 授業学研究委員会から

(7) 社団法人化後の人事について

(8) 会計について

例会内容(14:40～17:00)

(1) 研究発表

西原哲雄(宮城教育大)「音律階層による重名詞句移動の分析について」

(2) 講演

講師：Lucy Cooker(神田外国語大)

演題：Assessing Learner Autonomy in the SALC: How Is It Done?

2. 今後の予定

12月8日(土)に役員会及び例会が開催される予定である。場所は東北工業大学

一番町ロビーと同じニッセイビル8階会議室。

(岡崎久美子・宮城工業高専、弓谷行宏・宮城大学、宮曾根美香・東北工業大学)

〈北海道支部〉

1. 支部大会の開催

2007年度(第22回) JACET 北海道支部大会

日時: 7月7日(土) 13:30~17:30

場所: 藤女子大学

研究発表: 志村昭暢(旭川実業高校・北海道教育大旭川校大学院)「日本の英語授業における教師のL1, L2使用の量的研究の方法」, 石川希美(苫小牧工業高専)「教職課程履修学生の授業案」, 竹村雅史(函館工業高専)「英語多読授業の試みー学習者中心のリーディング授業の展開ー」

総会: 報告, 本部報告(JACET代表幹事寺内一)・支部長報告・幹事報告・各種委員会報告, 議題, 2006年度決算報告会計監査報告・2007年度予算案・2006年度活動報告・2007年度活動計画・2007年度支部役員・支部長選挙について・創立20周年記念賞の継続について

講演: 中野美知子(早稲田大)「ICTを活用した実践コミュニケーション能力の育成ー早稲田大学の大胆な試みー」

大会終了後 18:00より懇親会

2. 支部役員会の開催

(1) 2007年度第2回役員会

日時: 6月16日(土) 13:00~15:00

場所: 藤女子大学

報告: 支部長報告・幹事報告・各種委員会報告
議題: 支部大会について・総会の議題について・支部長選挙について・創立20周年記念賞の継続について・その他

(2) 2007年度第3回役員会

日時: 10月27日(土) 14:00~16:00

場所: 北海学園大学

報告: 支部長報告・幹事報告・各種委員会報告
議題: 支部長選挙推薦投票・その他

3. 今後の予定

(1) 研究会の開催

2008年2月2日(土) 詳細未定

(2) 紀要およびニューズレターの発行

Research Bulletin of English Teaching 第5号, JACET 北海道支部ニューズレター第21号を発行の予定。(河合靖・北海道大学)

全国大会運営委員会からのお知らせ

委員長 渡辺敦子・国際基督教大学

第47回 JACET 全国大会のご案内をいたします。

会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

大会テーマ: 「グローバルな英語コミュニケーション能力とはー英語教育再考ー」

What is Global English Communicative Competence?: A Reconsideration of English Education in Japan

日時: 2008年9月11日(木)~9月13日(土)

会場: 早稲田大学(東京都新宿区西早稲田1-6-1)

大会テーマに鑑みて、第47回大会では英語の発表件数を増やしてゆきたいと思っております。どうぞ皆さま奮ってご応募ください。尚、応募締切は2008年2月16日(土) 厳守・消印有効です。

編集後記

前号から JACET 通信がカラーになったことにお気づきになりましたか? 変わったのは色だけではありません。新メンバーになってから、「特色ある大学英語教育プログラム」「私のゼミ紹介」など、新たな企画が加わりました。

これからも、会員の皆様に興味を持って読んでいただけるようなニューズレターになるよう、一同努力していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

編集委員

理事	木村松雄・青山学院大学
委員長	尾関直子・明治大学
副委員長	大須賀直子・秋草学園短期大学
副委員長	田口悦男・大東文化大学
	木村みどり・東京女子医科大学
	Kate Allen・神田外語大学
	Miller J. Charles・白鷗大学
	遠藤雪枝・明治大学・非

2007年12月1日発行

発行者 大学英語教育学会(JACET)

代表者 森住 衛

発行所 162-0831 東京都新宿区横寺町55

電話 (03) 3268-9686

FAX (03) 3268-9695

<http://www.jacet.org/>

印刷所 228-0021 座間市緑ヶ丘3-46-12

有限会社 タナカ企画

電話 (046) 251-5775